

別紙2 図書館システム機能要件確認表

標準パッケージ仕様で対応可「◎」、オプションで対応可「○」、カスタマイズで対応可「△」を区分して「対応方法」欄に記入すること

業務	機能	項目	機能要件	対応方法
1 基本仕様	1 全般	1	図書館サービスは、クラウドサービスにより利用可能であること。	
		2	ICタグにも対応した図書館システムであること。設定等の変更によりICタグ対応ができること。	
		3	公共図書館システムと同一サーバー内で連携可能な学校図書館システム(オプション)があること。	
		4	多言語に対応していること。	
		5	現行のシステム事業者から提供される抽出データの全てが移行できること。	
		6	書誌データの登録件数に制限がないこと。過去の新刊全件マークも含め現行システムで使用している全ての書誌情報が登録できること。	
		7	図書・書誌・利用者データ入力、新刊図書発注、受入作業等の際、カウンター業務の処理速度が低下しないこと。	
		8	広域利用等における相互貸借機能を備えていること。	
		9	各種統計、帳票類の作成が容易に行えること。	
		10	アクセスログ機能を備え、管理者(カウンターは日常業務のみ行う設定)のみがログを参照できること。	
		11	図書館のホームページが作成でき、予約や予約状況確認、貸出状況確認等ができること。	
		12	メールマガジンを作成し、発行できること。また、メールマガジンはテンプレートを使用して編集できること。	
		13	クラウドサービスにより、提供されるサーバーのディスク容量は、今後五年間のデータ量の増加にも制限されることなく十分対応できること。(目安書誌数を30万件とする)	
		14	データ量やクライアント等の増加により、貸出、返却、資料検索、利用者検索などの処理速度が低下しないこと。	
		15	サーバー及びクライアントにはウィルス対策ソフトをインストールし、設定すること。	
		16	クラウドサービスにより、メールサーバーが提供可能であり、図書館で運用できるよう設定ができること。	
		17	クラウドサービスにより、Proxyサーバーが提供可能であり、ネットワークのトラフィックやサーバーの負荷の分散を図ること。	
		18	クライアントはWindows11以降であること。	
		19	バーコード及びICタグの読み込みが確実であること。	
		20	図書館のLANIについては、既設のものを利用すること。	
		21	将来的にもICタグ対応や学校図書館との連携など、拡張性をもったシステムであること。	
		22	ハードウェア・ソフトウェアの保守については、窓口を統一すること。	
		23	オンサイト保守(出張保守)を行うこと。	
		24	土・日・祝日・夜間においても、図書館システムの保守対応の実績があり、対応ができること。	
		25	図書館からの要請時に限り、リモートメンテナンスができること。	
2 業務用システム	1 貸出	1	利用種別、図書種別に関わらず、同じ画面で貸出処理ができること。	

2	貸出画面から業務切替え(返却・書誌検索・利用者検索・図書登録・利用登録)の操作はマウス・キーボードの両方からできること。	
3	貸出画面から返却画面への業務切替え、また、返却画面から貸出画面への業務切替えは、バーコードをスキャンするだけでもできること。	
4	貸出処理途中で資料検索・利用者検索等の業務が割り込み処理できること。	
5	利用者種別(個人・団体等)ごとに返却予定日や貸出点数の制限について自動設定(図書館の貸出規則通り)ができること。また、貸出画面上で利用者単位に任意の変更もできること。	
6	図書種別(一般書、児童書、雑誌、視聴覚資料)ごとに、返却予定日や、貸出冊数制限、督促日数について自動設定ができること。また、貸出画面上で1冊単位に任意の変更もできること。	
7	利用者種別(個人・団体等)と図書種別(一般書、児童書、雑誌、視聴覚資料等)の組み合わせで貸出制限ができること。	
8	予め休館日を設定することで、返却予定日と休館日が重なった場合は、自動的に休館日を避けた設定ができること。(休館日にあたる日の直後の開館日を返却日とすること)	
9	臨時休館日の時期に合わせて、自動設定した返却予定日を任意に変更できること。コロナ禍などの急な事情による休館の場合に職員の操作により、一括で返却予定日の変更ができること。	
10	利用者が利用カードを忘れたり、利用カードを紛失した場合、利用者検索することにより、即時貸出処理ができること。	
11	利用カードの有効期限が切れている場合、通常とは異なる音とともに、メッセージが表示できること。	
12	有効期限が過ぎた利用者に対し、更新・中止を選択できること。更新の場合は詳細画面に展開できること。	
13	貸出画面上では、仮登録機能により、正規の利用者情報を入力しなくても、最小限の情報入力で、利用カードの即時発行と貸出ができること。	
14	貸出画面上に、利用者名、在住区分、貸出日、返却予定日、現在の貸出点数(図書・視聴覚資料別)、利用者に対する伝言、予約点数を表示すること。	
15	予めその利用者に対して入力しておいた伝言メッセージは、貸出時に利用者カードをスキャンした時、通常とは異なる音とともに表示できること。	
16	利用者に対する伝言は、内容によって表示／非表示の選択ができること。	
17	伝言は複数登録でき、貸出画面上にすべて表示され、登録日が管理できること。	
18	伝言の追加、変更、削除が貸出画面からできること。	
19	貸出画面上で、利用者の大人／児童の判別ができること。	
20	貸出中の資料について、予約、督促、弁償の有無、相互貸借資料、延長回数を確認できること。	
21	利用者に延滞資料がある場合、メッセージが表示できること。	
22	貸出処理中の利用者に、発見済みで提供可能な予約資料がある場合のみ、通常と異なる音とともに、メッセージが表示できること。	
23	予約情報は貸出を行った後に自動的に削除できること。家族の利用カードで貸出した場合も同様に処理できること。	
24	利用者に弁償予定資料がある場合は、メッセージが表示できること。	
25	1台の端末で、バーコードとICタグを併用した貸出ができること。	
26	貸出点数の制限を超えた場合は通常と異なる音とともにメッセージが表示されること。さらに、貸出続行の有無を選択でき、メッセージ解除で貸出が続行できること。	

27	貸出画面において、プライバシー保護のため、利用者名と資料名の表示、非表示を職員がワンタッチで切り替えられること。		
28	利用者名、資料名の表示・ワンタッチ切り替えは、システムログオン時のユーザーIDにより制御できること。		
30	貸出画面において、貸出冊数の表示ができること。団体利用者の貸出冊数も表示できること。		
31	貸出冊数は種別ごとに表示できること。また、延滞冊数も種別ごとに表示できること。		
32	無効、住所確認等のメッセージのある利用カードをスキャンしたとき、通常と異なる音とともにメッセージが表示できること。		
33	貸出画面から、その利用者の詳細(住所・電話番号等)をワンタッチで表示できること。		
34	貸出延長処理ができること。予約資料、相互貸借資料の場合は、通常とは異なる音とともにメッセージが表示でき、貸出延長を「する・しない」が選択できること。		
35	貸出延長は、これから貸し出す資料、貸出中資料のいずれも可能であること。また、貸出中資料の延長は任意の1冊、または全ての資料か選択が可能なこと。		
36	延長貸出しは、利用者検索から照会した貸出状況画面からも可能であること。その継続貸出資料に予約がかかっている場合、メッセージが表示できること。		
37	貸出画面からその利用者の予約状況をワンタッチで表示できること。		
38	利用者の予約資料一覧画面では、予約発見済(確保済み)資料を上位に表示できること。		
39	貸出から貸出中資料の詳細(書誌詳細)をワンタッチで表示できること。		
40	メモ付きの資料を貸出処理した場合、メッセージを表示すること。		
41	メモの追加、変更、削除が貸出画面からできること。		
42	禁帯出等貸出不可の資料が貸出処理された場合は、メッセージが表示できること。		
43	未返却資料を貸出した場合、元の利用者からは自動返却されること。		
44	貸出処理の際、現在の貸出資料をレシートに印字できること。また、予約状況についてもレシートに印字できること。		
45	レシートに印字する資料は、今回貸出した資料のみか、貸出中資料全てか選択できること。		
46	団体貸出ができ、団体別の貸出一覧表の作成ができること。		
47	団体貸出で冊数制限の設定ができること。		
48	団体貸出で、返却予定日の変更ができること。		
49	団体利用カードをスキャンすると、貸出冊数、貸出中の図書番号等が表示できること。		
51	一定時間経過後、自動的に画面をクリアできること。クリアする時間は任意に設定できること。		
53	バーコードの読み取りエラーのときは通常とは異なる音にすること。		
54	貸出画面で伝言が一覧で確認できること。		
55	貸出画面、貸出状況の確認画面では、一般書、児童書、雑誌と色分けできること。		
56	貸出の予約資料一覧画面で、予約順位を変更できること。		
2 返却	1	返却中のプライバシー保護のため、資料名の表示、非表示が選択できること。	
	2	資料名の表示、ワンタッチ切り替えはシステムログオン時のユーザーIDにより制御できること。	

	3	画面の色を貸出画面と別の色にできること。	
	4	連続返却機能を有すること。	
	5	返却の取り消し機能を有すること。また、予約資料の取り消しができること。	
	6	画面上に返却記録が残っている場合、その資料の詳細、利用者の詳細、貸出状況を閲覧できること。	
	7	返却処理中に、他館、書庫、予約、相互貸借、不明、弁償対象、異動、未登録、メモ登録付き等の資料が発見された場合、通常とは異なる音とともに、メッセージが表示できること。	
	8	返却利用者の伝言が表示可能なこと。伝言は内容によって表示／非表示の選択ができること。	
	9	伝言は複数登録でき、返却画面上に表示できること。	
	10	伝言の追加、変更、削除が返却画面からできること。	
	11	返却処理中に、予約資料が発見された場合、予約者を優先順位順に表示できること。	
	12	返却処理中に、予約資料が発見された場合、予約資料情報および予約割当対象者の情報を予約発見レシートとして自動的に印刷できること。	
	14	予約資料の場合は色を変えて表示し、分かりやすくすること。	
	15	返却画面からワンタッチで予約資料の予約状況が表示できること。	
	16	予約ファイルは、書誌番号で管理し、複本もチェックできること。	
	17	セット予約資料で、セット順位上位の資料がまだ返却されていないときは、予約発見せず、メッセージも表示しないこと。	
	18	予約追加、取り消し、予約順位の変更ができること。	
	19	不明図書・除籍図書が発見された場合、通常とは異なる音とともに、メッセージを表示し、返却された時点で不明発見図書とすること。	
	20	二重返却処理ができること。	
	21	返却処理後は利用者の貸出記録を自動的に消去し、プライバシーの保護ができること。	
	22	弁償対象資料は、返却された時点で自動的に弁償対象解除できること。	
	23	異動資料、未登録資料が返却された場合、その処理を無効とすること。	
	24	メモ付きの資料を返却処理した場合、通常とは異なる音とともにメモ内容が表示できること。	
	25	当日の返却済み資料の利用者を確認できること。	
	26	予約発券レシートには、書名、著者名、巻次、請求記号、登録番号、予約日、予約発見日、予約人数、連絡方法、利用者番号、電話番号、氏名、が表示できること。	
3 利用者検索関連	1	最低一文字から検索ができること。	
	2	検索した結果、候補者が複数いればすべて表示できること。	
	3	候補一覧では、在住区分、無効事由で色分けできること。	
	4	候補一覧では、予約資料の有無、伝言の有無が確認できること。	
	5	利用者番号、利用者名、電話番号、住所コード、生年月日から利用者の検索ができること。	
	6	利用者検索結果から、利用者の詳細情報画面へ展開できること。	

	7	利用者検索結果から、貸出一覧に展開し貸出状況の照会ができること。また、資料の予約・延滞・弁償の有無がわかること。	
	8	家族検索が可能であり、家族一覧表示ができること。また、貸出・予約状況の表示ができること。	
	9	広域利用者が特定できること。	
	10	利用者検索結果から、利用者予約状況に展開できること。	
	11	利用者検索結果から、予約資料一覧に展開し、予約変更、予約取消、連絡済記録ができること。	
4 資料検索関連	1	高速全文検索が可能であること。	
	2	一つの検索画面から全資料(図書、雑誌、視聴覚、電子書籍)の検索ができ、該当資料とその件数の表示ができること。	
	3	検索結果の状態(自館在架、貸出中、発注中、予約貸出待ち、異動、不明、禁帯出、相互貸借)が色分け表示できること。	
	4	カナ、ローマ字、漢字で検索できること。また、カナ検索、漢字検索、ローマ字検索も同一にフィールドに入力できること。	
	5	発音・濁音などのカナ読みに柔軟性があること。(例:「ダイブツ」「タイフツ」、「トショカン」「トショカン」等)	
	6	図書・書誌別に検索できること。	
	7	所蔵、未所蔵、発注中、全件の条件で検索できること。	
	8	書名(第一・第二・副書名・巻の書名・叢書名・内容の書名等)から検索できること。	
	9	著者名(第一・第二・第三・被伝者・巻の著者・内容の著者)から検索できること。また、前方一致検索ができること。	
	10	典拠ファイルを利用した検索ができること。人名典拠、団体典拠、全集典拠、シリーズ典拠、件名典拠、出版社典拠が使用できること。	
	11	分類には、NDC類とローカル分類(図書館独自の分類)の2つが設定されており、どちらからでも検索できること。	
	12	ISBNによる検索ができること。	
	13	前方一致検索ができること。また、典拠ファイルを参照することにより、条件設定ができること。	
	14	出版社、版年、別置、分類、書誌番号、登録番号、登録日から検索できること。	
	15	複合検索の項目は限定せず、すべての検索キー項目に対して検索ができること。	
	16	フリーワード検索ができること。フリーワードは3件以上入力可能とし、書名・著者名・件名・出版社を検索対象とすること。	
	17	AND、OR、NOTの条件検索ができること。	
	18	検索途中で貸出、返却、利用者検索等の業務の割り込みができること。	
	19	検索結果一覧から、タイトルごとに蔵書一覧、予約情報、発注処理、書誌詳細情報の各処理画面へ展開できること。	
	20	図書種別(一般・児童・雑誌・視聴覚資料等)の条件を、設定しても設定しなくても検索できること。	
	21	検索結果一覧画面において、前画面・次画面と画面送りができること。	
	22	検索結果が多数になった場合、さらに条件を追加設定して絞り込み検索ができること。	
	23	検索結果一覧の表示順は、書名、著者名、分類、マーク番号、出版年、発行日等について、昇順・降順を自由に設定できること。	
	24	検索結果一覧表示では、多巻物の巻号は番号順表示ができること。	

	25	書誌検索・図書検索のどちらでも、分類順表示ができること。	
	26	検索結果一覧では、書名、著者名、出版社、版年、書誌番号、所蔵数、在架数、予約数、発注数、ISBN、登録日の確認ができること。	
	27	検索結果一覧画面の表示を、所蔵、未所蔵、発注中等で抽出表示することができること。	
	28	検索結果一覧及び詳細画面の印刷ができること。	
	29	検索結果一覧のCSV形式等のファイル出力ができること。CSV出力する資料は検索結果から複数選択できること。	
	30	検索結果一覧をEXCELに展開できること。EXCELに展開する資料は検索結果から複数選択できること。	
	32	蔵書一覧では、蔵書資料の状態(在架、貸出、予約貸出待ち、不明、除籍、相互貸借等)の確認が取れること。また、相互貸借資料は相手先が確認できること。	
	33	蔵書一覧では、蔵書資料の配架状態(所蔵館、貸返館、保管場所)の確認が取れること。また、保管場所は色分け表示ができること。	
	34	蔵書一覧で、各資料の年度内、累計貸出回数を確認できること。	
	35	蔵書一覧から図書詳細・書誌詳細の画面へ展開できること。	
	36	蔵書一覧から、バーコード単位の予約、弁償、不明、督促処理ができること。	
	37	検索結果から予約の確認と登録ができること。	
	38	検索結果から複数の資料を選択してセット予約ができること。	
	39	検索結果から発注の状況の確認と登録ができること。	
	40	検索結果から、指定資料の一括発注ができること。	
	41	検索画面において、検索条件、検索結果の履歴が残せること。	
	43	検索条件の履歴の中から、レファレンスに役立つものを記録に残し、「レファレンス支援ツール」としてファイル作成できること。	
	44	TRCマークについて、NCR2018に対応したフォーマットの取り込みができること。	
	45	TRCの典拠データの取り込みができること。 著者、出版社、全集、シリーズ、一般件名、学習件名等	
	46	請求記号で検索できること。	
	47	資料のバーコード番号など資料番号を指定した検索ができること。	
	49	レファレンスの事例検索は、質問、回答、キーワード、参考資料等から全文検索できること。	
	50	レファレンスの事例をホームページに公開できること。	
	51	新着図書を検索した時、新着図書が新着コーナーの棚にあることが分かるようにすること。	
5 雑誌管理関連	1	雑誌の基本情報を雑誌コードで管理できること。	
	2	雑誌登録は、雑誌コード、登録番号、号数等の簡易な入力で完了できること。書誌情報は、一般図書と同じエリアで使用できること。	
	3	検索結果一覧で、雑誌号数を表示し、雑誌は昇降順(最新号より)・登録順に並べ替えができること。	
	4	複写機能を使い、簡単な入力で登録できること。また、雑誌発注データの一覧から、簡単に受入登録ができること。	

	5	特集内容についても書誌登録画面に入力できること。また、登録した特集内容も資料検索対象になること。	
	6	増刊等の臨時の書誌作成は複写することで簡易にできること。	
	7	図書ローカル情報として貸出停止期限を入れることができること。	
6 予約関連	1	検索した資料に対し予約の入力・変更・削除ができること。	
	2	予約削除するときは、削除事由を登録でき、後で参照できること。	
	3	予約入力は利用者番号(ID)のみとし、その他の項目(順位、予約場所、予約日時等)は自動セットできること。	
	4	予約順位は、サーバー時計機能により、予約日、予約時間順で自動セットできること。また、予約日、予約時間を修正して、順位の割り込みができること。	
	5	利用者への連絡方法(電話、FAX、メール、連絡はがき、連絡なし、その他)が予約ごとに指定できること。一度指定すれば、次回予約以降は設定値で表示できること。	
	6	予約順位を図書館において、任意で変更・取り消しができること。また、予約取り消しの場合、自動的に予約順位が繰り上がること。	
	7	貸出処理により予約の自動解除ができること。また、予約順位は自動的に繰り上がること。	
	8	蔵書資料はもとより、発注資料、相互貸借資料の予定データに対して予約をかけることができること。	
	9	利用者番号が不明である場合(利用カードがない場合)でも、利用者検索画面へ移り、番号を調べ、選択したものを入力し予約できること。	
	10	発注画面での予約入力ができること。	
	11	セット予約ができること。セット順位指定は任意にできること。	
	12	セット予約する資料は予約時に任意に選択できること。	
	13	予約中の予約セットに予約を追加、変更、削除ができること。	
	14	予約マスターは全て書誌番号で管理され、複本がある場合そのすべてに予約がかけられること。	
	15	バーコード単位での予約もできること。通常の書誌予約とバーコード単位の予約がかぶった場合は、バーコード単位の予約を優先すること。	
	16	検索結果一覧から、複数の書誌を選択し、一括予約ができること。	
	17	当日割当された予約資料一覧や、返却期限が過ぎている未返却予約資料一覧表が随時作成できること。	
	18	予約発見済資料の予約者がメール登録者である場合、連絡用メールが自動的に作成され、メール連絡ができること。	
	19	資料・利用者の両方から、予約状況を一覧で確認できること。	
	20	利用者の予約図書一覧画面から予約の取り消しができること。	
	21	利用者種別・資料種別による予約の制限を設定できること。	
	22	Web上で予約を入れた場合、業務端末の予約画面にWeb予約である表示ができること。	
	23	Web予約・OPAC予約は、予約件数制限ができること。	
	24	予約発見済資料をメール連絡する際に、バーコードスキャンまたはICタグの読み込みでメール送信する資料を特定できること。	

	25	メールの件名、本文、署名は、あらかじめテンプレートに登録できること。テンプレートはメール送信館別に登録できること。	
	26	メールのテンプレートは複数登録でき、メール送信前に既に作成されているメールのテンプレートを一括変更できること。	
	27	メール送信は、設定した時刻、または設定した間隔で自動的にできること。また、職員が操作してのメール送信もできること。	
	28	メールの一括送信、再送信ができること。	
	29	Web上で未所蔵資料に対するリクエストができること。	
	30	未所蔵資料に対するリクエストを画面に一覧表示し、採用・不採用処理を職員が行えること。	
	31	予約データの確保期限日を一括で変更できること。対象データは利用区分、受取り館、連絡方法等で抽出が行え、相互貸借資料を含むかどうか選択できること。	
	32	予約データの連絡済み状態を解除し、再度、電話・メール等で連絡対象とする機能があること。	
	33	予約をかけられる資料は、「貸出中の資料のみ」または「すべての資料」のいずれかで設定できること。	
7 発注関連	1	発注先別の発注データの作成ができること。また、その発注データから発注資料(リスト)の作成ができること。	
	2	発注データは資料検索から作成できること。	
	3	検索結果からの一括発注ができること。	
	4	書誌番号、またはISBNの連続入力による発注ができること。	
	5	発注画面で使用する請求記号(別置記号・分類・図書番号・巻記号)をあらかじめ入力できること。また、未入力でも発注ができること。	
	6	請求記号は、別置記号半角6桁・全角3桁以上、巻記号全角6桁以上が入力できること。	
	7	発注用カレンダーと処理日から、自動的に発注日をセットできること。	
	8	発注データを検索し、修正、削除ができること。	
	9	発注データを複写して発注できること。	
	10	受入時点で書誌情報の内容を加筆、修正できること。	
	11	資料検索において発注図書の検索ができること。	
	12	最新の発注情報、発注履歴が検索できること。	
	13	継続購入資料等、発注行為を行わなくても納入される資料について、新刊マークの受入時に自動発注ができること。	
	14	新刊案内からの発注、検索からの発注と色々なケースに対応できること。	
	15	書誌検索・発注画面で、いつでも発注・受入状況が確認できること。	
	16	データ送信の前に発注登録内容の一覧を印刷し、確認できること。その修正・追加・削除もできること。	
	17	データ送信の前に発注登録内容をEXCELに展開できること。	
	18	データ送信済みの発注回かどうかチェックができること。	
	19	納品・未納品の状況一覧が作成・印刷できること。	
	20	インターネットで発注データの送信ができること。	

	21	システムと連動してTRCのTooLiが使用できること。	
8 受入管理	1	インターネットでデータ受信できること。(TRCのTooLiで本の発注データを送ったり、マークがダウンロードできること)	
	2	受入処理は登録番号をバーコードスキャン、またはIC読み込みするだけで可能とすること。	
	3	受入時に発注資料に予約がある場合は一覧を表示し、確認ができること。	
	4	受入データ(件数・図書)一覧、検品件数一覧、新着図書一覧、発注予約図書一覧、受入エラーリストが作成できること。	
	5	システムと連動して、TRCのTooLiが使用できること。	
	6	発注資料のデータは、自館のシステムに一括して受入することができること。	
9 書誌登録	1	類似書誌情報の活用ができること。	
	2	類似書誌情報を検索し修正した後、書誌番号の置きかえによりデータが複写されること。	
	3	受入時、版年・価格・請求記号等が入力できること。	
	4	著者名、出版社名は典拠ファイルから入力できること。	
	5	通常の本誌登録とは別に、特定項目のみ入力すれば登録できる簡易登録機能を有していること。また、項目は任意に指定できること。	
	6	複本登録は、既存データ呼び出し、バーコードのスキャンのみで一括してできること。	
	7	自館入力の場合、類似書誌情報の検索により複本の確認ができること。また、登録は書誌番号と登録番号の入力ができること。	
	8	書誌検索結果一覧画面から書誌詳細画面に展開し、修正作業ができること。	
	9	図書情報の修正も同様にできること。	
	10	発注処理をしないで(雑誌・寄贈資料等)直接受入処理を行う場合、書誌登録で受入れができること。	
	11	図書・雑誌・視聴覚の各資料を登録し、その変更・削除ができること。	
	12	請求記号(別置、分類、巻号)、資料種別(一般、児童、雑誌、郷土行政、参考、視聴覚等)、所蔵館、保管場所、禁帯区分、(貸出可・禁帯出)、受入区分(購入・寄贈)、登録日、出版年、価格、貸出禁止等の入力ができること。	
	13	別置記号は半角6桁、全角3桁以上、巻記号は全角6桁以上を入力ができること。	
	14	資料個別にメモ登録ができること。(CD-ROM付き資料等)	
	15	メモは複数登録ができ、登録日を設定できること。	
	16	版年は、出版年不明・推定に対応できるように、その旨登録ができること。	
	17	資料詳細表示と同時に、資料の状況(貸返・除籍・修理中・汚破損)とその日付を確認できること。	
	18	TRC・トーハン・日販・大阪屋・トッカータなどの各社マークに対応していること。	
	19	各種マークデータは完全に取込みすることができること。	
	20	電子書籍の書誌情報を登録できること。	
	21	電子書籍マークの取込みができること。	
	22	複本データの管理ができること。	

	23	システムと連動して、背ラベル印字、バーコード印字ができること。	
	24	背ラベル印字、バーコード印字ではシステム側で印字開始位置(○行目○列目)の指定ができること。	
10 利用者登録関係	1	個人利用者(一般・児童別)、団体利用者、広域利用者などで登録できること。	
	2	連絡用にメールアドレスが登録できること。メールアドレスは2個まで登録できること。	
	3	登録時に自動的に二重登録をチェックできること。	
	4	電話番号検索をし、家族のデータを流用して登録できること。	
	5	氏名欄は20文字以上入力可能であること。	
	6	氏名は、漢字を入力して自動でヨミをセットできること。	
	7	利用カード再登録者は、利用者番号置き換えにより、過去の利用者情報がそのまま活用できること。同時に、現在の貸出・予約情報(状況)も移行できること。	
	8	世帯番号を付番することにより、世帯管理ができること。また、世帯番号は、電話番号から自動検索できること。また、電話番号が不一致でも、住所が一致した場合は、世帯番号を同一付番する候補として表示すること。	
	9	世帯情報は、予約資料の貸出、貸出状況の確認、予約状況の確認、督促処理で利用ができること。	
	10	団体利用者は、個人利用者とは異なった別番号の体系を持たせ管理できること。また、団体の種別を利用することにより、貸出冊数の制限を設けることができること。	
	11	団体利用の代表者名、連絡先の項目を設けること。	
	12	連絡先として、電話番号を2件まで登録できること。そのなかから連絡の電話番号を任意に指定できること。	
	13	利用者による予約等に使うためのパスワードを登録できること。	
	14	初期パスワードは生年月日8桁を仮パスワードとして移行すること。	
	15	メールアドレス登録者には、予約発見済み(確保済み)資料・督促等の連絡を送信できること。	
	16	住所には地区コードを設け、住所入力の際自動でセットされること。さらに、地区コードには広域登録者を別コードとすること。	
	17	住所は2個まで登録できること。	
	18	在住区分を、町内在住、町内在勤、在学、広域利用など任意にコード分けができること。	
	19	利用者に対し、伝言を登録できること。伝言コードからの入力とフリーエリアへの入力の両方ができること。	
	20	伝言は複数登録でき、それぞれ履歴を確認できること。	
	21	伝言の項目は、公開、非公開(貸出・返却画面)の設定ができること。	
	22	利用カードの有効期限を設定できること。有効期限は利用者種別ごとに初期値を設定できること。	
	23	利用カードの有効期限について、事由、処理館、更新日を登録できること。また、無効事由は5種類以上区分分けし、選択できること。	
	24	一定期間利用の無い登録者を抽出し、削除対象者の一覧が作成できること。登録日、最終利用日等の範囲指定ができること。	
	25	抽出した削除対象者の登録内容に、削除対象者であることを記録できること。	

	26	削除対象者の一括削除ができること。	
11 広域利用関係	1	広域分のみを抽出した利用統計、登録者統計が印刷できること。	
	2	リストは、広域地域別、利用者種別(一般・児童別、男女別、合計)、受付館別、全館等の条件指定で作成できること。	
	3	地区区分の登録が容易にできること。	
12 家族管理	1	世帯番号付番により、家族(世帯)管理ができること。登録時に電話番号から検索できること。	
	2	電話番号が一致する利用者は、代表者の住所情報を候補として表示し、任意で同一世帯としてセットができること。	
	3	世帯情報は、貸出状況の確認、予約状況の確認、予約資料の貸出、延滞督促処理に利用できること。	
13 蔵書管理関連	1	蔵書点検にはハンディターミナルが使用できること。	
	2	蔵書点検は配架区別で行えること。	
	3	蔵書点検は、在架資料のバーコードを読み、登録済みの所蔵データと付き合わせることで、不明資料の検出ができること。	
	4	点検後、不明資料の検出を行い、リストを所蔵館・保管場所・不明回数別に作成できること。また、貸出中図書で在架の場合、自動返却できること。	
	5	入庫先コードを設定し、点検処理によって保管場所が変更できること。また、一覧表の作成ができること。	
	6	蔵書点検の結果により、ある回数以上不明であれば、除籍候補として抽出できること。	
	7	除籍処理では、即時にマスターから削除されず、日付と除籍種別が記録できること。	
	8	削除処理では、即時にマスターから削除されること。	
	9	2冊以上の除籍の場合も連続して作業できること。除籍種別の設定もできること。	
	10	不明の解除は、貸出・返却・蔵書点検による自動解除・強制解除ができること。	
	11	除籍の解除は、貸出・返却・蔵書点検による自動解除・強制解除ができること。	
	12	総合目録のためのISBN抽出ができること。また、登録日範囲や書誌番号範囲の設定ができること。	
	13	サーバーからの各種データをノートPCに落とし込むことにより、オフライン処理にて、貸出、返却、書誌検索、利用者検索、利用者仮登録ができること。	
	14	除籍、処理中等の資料の状態を変更し、検索画面において状態別に利用不可である表示ができること。	
	15	資料情報、状態の変更は個別または一括で行うことができる。その解除も同様にできること。	
	16	所蔵館、保管場所、禁帯区分、別置記号、図書コメントの変更について、個別または一括で処理ができること。	
	17	不明になった資料は検索・図書詳細画面で不明処理ができること。	
	18	特定の状態(修理中など)の資料の一覧は日付、所蔵館、資料種別、受入区分ごとに作成できること。	
	19	不明回数が多い資料について、一括除籍ができること。	
	20	不明資料は蔵書点検による不明か、不明入力による不明か区別できること。	

	21	不明になった日付を入力できること。	
	22	利用者・資料マスターを削除できること。同時にその一覧を印刷できること。	
	23	資料に永年保存を設定できること。永年保存に設定されている資料を除籍しようとしたときは、メッセージを表示する。資料番号を複数連続入力して永年保存設定または解除できる別画面を用意すること。	
14 延滞督促関連	1	未返却資料について、資料と利用者それぞれの一覧表と、件数集計表、予約資料未返却一覧表、督促除外者一覧表、督促状を印刷できること。	
	2	督促状には、宛先、利用者番号、氏名、資料番号、貸出日、返却期限日の印字ができること。	
	3	延滞経過日数の範囲を指定できること。	
	4	並び順(氏名五十音順、郵便番号)を選択できること。	
	5	督促対象(未督促、督促済)を選択して抽出できること。	
	6	予約のある資料について、抽出できること。	
	7	弁償対象資料を除外して抽出できること。	
	8	対象者を画面に一覧表示し、任意で除外することができること。	
	9	世帯単位で、督促図書の名寄せし、ハガキに印刷できること。	
	10	督促状印刷において、資料名は表示・非表示を選択できること。	
	11	メール登録者に督促メールを個別または一括で送信できること。	
	12	メールの件名、本文、署名は、あらかじめテンプレートに登録できること。	
	13	メールテンプレートは複数登録でき、メール送信前に既に作成されているメールのテンプレートを一括変更できること。	
	14	督促の回数を資料単位、利用者単位で管理できること。	
	15	一覧表の表示順は住所表記順に変更ができること。	
	16	利用者番号指定でも督促状が作成できること。利用者番号は10件程度指定できること。	
	17	督促対象者をEXCELで抽出でき、二次加工できること。	
15 弁償関連	1	資料弁償の必要ができた場合に、利用者と資料の両方に対し弁償対象である記録を付けることができ、紛失日も入力できること。	
	2	対象資料について、紛失資料証明書(利用者用)と紛失資料明細(図書館用)を印刷できること。	
	3	対象資料について、任意に弁償解除ができること。	
	4	紛失資料証明書は、資料情報のほか、発行日、紛失日、発行館、資料登録番号、所蔵館、分類等を印字できること。	
	5	紛失資料証明書は上記資料情報の他、利用者情報と経過を記録するための、返却日、弁償終了日を記入できること。	
	6	弁償待ち資料一覧表を返却予定日から作成できること。	
16 相互関連	1	他自治体との相互貸借実績を記録し、検索・照会できること。	
	2	借用する資料については、書誌を仮登録し、予約登録ができること。また、登録した書誌情報は繰り返し利用できること。	
	3	バーコードが作成でき、そのバーコード番号で図書登録、貸出処理が可能であること。	

	4	借用する資料の書誌は、市販マークやCD-ROM、自館入力データを利用して作成できること。	
	5	借用資料の受入登録、仮番号の付番ができること。また、分類番号を登録し、統計に利用できること。	
	6	資料種別(一般、児童、雑誌)及び分類別の統計が取れること。また、相互貸借資料を相手館別で集計できること。	
	7	当館の相互貸借用バーコードと他自治体資料のバーコードが同一画面上で読み込みできること。	
	8	借用資料データは利用者用端末やWebに表示しないこと。	
	9	相互貸借先、借用状態、予約・受入・貸出・返却を日付別に現状と履歴の確認ができること。	
	10	借用資料について、貸出伝票の出力ができること。	
	11	相互貸借資料の履歴検索ができ、一覧をCSV出力できること。	
	12	借用資料は通常の貸出操作で利用者に貸出できること。貸出画面では借用資料であることが判別できること。	
	13	借用資料は通常の返却操作と同様の操作で返却でき、画面上で借用資料であることが判別できること。	
	14	協力貸出資料の返却期限が自動セットできること。	
17 作表統計関連	1	統計作業全て、作成年月、作成順等を指定して作成ができること。	
	2	集計結果については、プリントアウトしなくても画面上で確認できること。	
	3	日、週、月、年単位の利用統計が作成できること。	
	4	任意の日付の利用統計を作成できること。日付は14日以上指定できること。	
	5	曜日別、時間帯別、年齢別、地区別、団体貸出、広域利用者の利用統計表を作成できること。	
	6	利用者種別別の利用統計が作成できること。(個人貸出(一般・児童)、団体貸出、相互協力貸出)	
	7	予約のかかった資料の統計ができること。	
	8	予約ベスト図書の一覧表が週・月・年単位等で作成できること。	
	9	ベストリーダーの一覧表が作成できること。	
	10	年齢別のベストリーダー・リクエストの一覧表が作成できること。年齢は範囲指定できること。	
	11	未利用図書の一覧が作成できること。	
	12	分類別の利用率、貸出率、回転率などの統計表を作成できること。	
	13	職員が任意に抽出条件、出力項目を指定して統計表や一覧表が作成できるEUC機能を備えていること。(表計算ソフトへの出力による加工・編集・部分印刷ができること。)	
	14	EUC機能では、資料・利用者・予約・発注・貸出・除籍などの情報の一覧を作成できること。	
	15	EUC機能で一覧を作成するとき、複数の抽出条件や抽出項目を候補から選択し設定できること。	
	16	EUCの機能では、資料・利用者・予約・貸出・返却・除籍・相互貸借などの情報の統計を作成できること。	

	17	EUC機能で統計を作成するとき、複数の抽出条件や出力条件(統計の縦軸、横軸に設定する項目)を候補から選択し設定できること。	
	18	EUC機能で作成する一覧や統計は保存でき、過去の処理結果を参照できること。	
	19	EUC機能では、処理条件を保存し、再利用できること。	
	20	利用者登録の統計を作成できること。また、種別(個人(一般・児童)、団体、住所地区別、年齢(年代)別、性別)等を選択できること。	
	21	年度別利用登録者統計を作成できること。	
	22	登録資料統計を作成できること。	
	23	資料種別別・分類別・別置別の貸出の統計表を作成できること。	
	24	仮登録の資料番号及び利用者番号一覧を作成できること。	
	25	予約処理状況表として、受付場所、媒体別(業務用端末、OPAC、Web)に受付・処理件数一覧を作成できること。	
	26	町内の貸出数、町内個人の貸出冊数が一般書、児童書別に集計できること。	
	27	登録者数、貸出冊数を町内、町外、団体、個人別に集計できること。	
	28	有効登録者を集計できること。	
	29	分類ごとに、一般、児童、団体の貸出冊数が集計できること。	
	30	日本図書館協会の調査票の集計ができること。	
18 日計関連	1	貸出件数の現状を業務画面上に表示できること。	
	2	利用区分は一般・児童・団体・その他、図書区分は一般書・児童書・雑誌・視聴覚資料・その他とすること。	
	3	10年以上記録を参照できること。	
	4	返却件数も画面上で確認できること。	
19 出庫・回送処理	1	他館在庫資料に対し、取り寄せ依頼ができること。	
	2	依頼先館のプリンタで回送依頼伝票を印字できること。	
	3	伝票印字内容は自動設定ができること。	
	4	伝票には回付館、依頼館、依頼先館、依頼日、返却日、資料情報を印字すること。	
	5	回付場所は任意変更を可能とすること。	
	6	依頼資料が不明の場合、ワンタッチで不明連絡を依頼館にメッセージ返信等で知らせること。	
	7	回送依頼中・回送依頼受中の資料について、画面上に一覧を表示できること。一覧は依頼館、依頼先館、処理状況(未依頼、依頼済み、確認済み等)の選択ができ、依頼日の表示もできること。	
20 予算管理	1	年度・館ごとに予算の設定ができること。	
	2	複数の項目で予算の設定が可能であること。	
	3	発注方法ごと、種類別ごとでの予算管理ができること。	
	4	発注管理、受入管理と連動させること。	
21 オフライン関連	1	貸出・返却処理と、処理件数のカウントができること。	

		2	サーバーからの各種データをPCIに落とし込むことで、利用者検索、利用者仮登録、蔵書検索等もできること。	
		3	LANケーブル接続により、簡易にデータの落とし込みができること。	
2 館内利用者用端末	1 全般	1	館内利用者用端末の利用状況を、項目別(検索、資料情報、利用案内等)に件数の統計を取ることができること。	
		2	大人向け、子ども向け、英語での表示ができること。	
		3	一定時間利用が無い場合は、自動的にメニュー画面(スタート画面)に戻る。	
		4	メニュー画面のボタン名、ガイダンスを自由に変更できること。	
	2 利用案内	1	利用方法、各図書館案内地図、館内書架配置図、お知らせ、図書館カレンダー等を表示すること。また、各内容をプリントアウトできること。	
		2	内容は図書館の職員で変更できること。	
		3	新着図書、ベストリーダー、ベストリクエスト、おすすめの図書を閲覧できること。	
		4	新着図書、ベストリーダーの更新は定期的に自動でできること	
		5	ベストリクエストの更新は定期的に更新できること。	
		6	新着図書、ベストリーダー、ベストリクエスト、おすすめの図書から各資料の詳細画面へ遷移できること。また、予約もできること。	
	4 蔵書検索	1	業務処理の結果が即時に反映されること。	
		2	タッチパネル式で操作方法がわかりやすいこと。	
		3	検索対象資料は図書種別(一般、児童、雑誌、視聴覚資料等)と他の検索項目と組み合わせ検索できること。	
		4	検索項目は、書名・著者名・出版社・内容・フリーワード・分類・版年を指定できること。	
		5	検索キーはスペース区切りで複数入力でき、複合検索できること。	
		6	ジャンル検索(分類を項目から指定して検索)ができること。	
		7	並べ替えは書名、著者名、版年の新しい順、古い順を選択できること。	
		8	検索結果の件数が表示できること。	
9		件数が多い場合、表示を行うか、再検索をするかを選択できること。		
10		検索結果の一覧で、資料のおおよその状態(自館あり、貸出中)が分かること。		
11		検索資料の資料情報、1冊ごとの所蔵状況、配架場所、配架図が表示できること。さらに配架図については、点滅表示ができること。		
12		資料情報は、内容、内容紹介、著者紹介等も表示できること。		
13		資料情報として、画像を表示できること。		
14		検索結果をレシートに印字できること。		
15	所蔵館に資料が返却された状態に限り在架表示を出すこと。			
16	相互貸借資料等の仮登録書誌は表示から除外すること。			
17	検索結果には、一般書か児童書か分かるように表示ができること。(印刷レシートでも分かるようにすること)			
18	OPACからの予約は1件ずつ入力でき、予約が完了した時、自動的にログアウトされること。			

5 利用者情報確認	1	検索結果に対し、利用者番号(ID)とパスワードで予約回送申込ができること。		
	2	予約・回送資料の受け取り場所を選択できること。		
	3	予約・回送確認票をレシートに印字できること。		
	4	予約・回送依頼の連絡方法(メール連絡・電話・FAX・不要等)を選択できること。		
	5	予約・回送受付は即時に業務端末に反映されること。予約受付票・回送依頼伝票が印刷されること。		
	6	利用者によるパスワード登録・変更・メールアドレス登録・変更ができること。		
	7	利用者番号(ID)とパスワードで貸出状況、予約状況、回送状況が確認できること。		
	8	予約状況・回送状況から取り消しができること。		
	9	予約状況から資料を複数選択しセット予約できること。		
	10	業務用端末上に、どの館内利用者用端末から予約を受けたのかを表示できること。		
	11	予約の際、利用者のメールアドレス・電話番号が確認できること。		
	12	予約画面に、本の取り置き期間は1週間であることが分かるようにすること。		
6 読書手帳	1	読書手帳用のシールを専用プリンタにより出力できること。		
	2	シールの出力項目は、書名、著者名、出版者名、利用日を基本とするが、端末毎に設定することもできること。		
3 Web関連	1 Web関連	1	ホームページは別紙3の仕様内容に基づき刷新し、WebOPACでは蔵書検索、予約、延長等ができること。また、予約連絡は、メールで送信できること。	
		2	図書館システム側から、イベントの掲載、変更等が高度な知識がなくても変更できること。	
		3	蔵書検索結果は、書影・背表紙等の表示ができること。	
		4	資料情報として新着図書、ベストリーダー、ベストリクエスト、雑誌・新聞一覧(年度)等を公開できること。	
		5	新着図書、ベストリーダー、ベストリクエストのデータの更新は定期的に自動でできること。	
		6	新着図書、ベストリーダー、ベストリクエストからの資料の詳細情報に展開し、予約ができること	
		7	書名、著者名、出版社、件名、分類、出版年(範囲選択)、ISBN、フリーワードから検索できること。	
		8	資料種別(一般・児童・視聴覚・雑誌・電子書籍)を選択できること。	
		9	図書種別(一般・児童・郷土資料・視聴覚・雑誌等)を選択できること。	
		10	キーワードは複数入力できること。	
		11	検索結果の候補一覧で、資料が貸出可能かどうか判断できること。	
		12	検索結果の候補一覧を書名、著者名、分類、出版年で並べ替えできること。	
		13	検索結果の詳細ページから、著者名、出版者などで再検索できること。	
		14	検索結果の詳細ページから、予約ができること。	
		15	検索結果の詳細ページには、複数の所在情報が表示されること。なお、所在情報コメントを表示でき、コメントの内容は自由に設定できること。	

16	検索結果の詳細ページから、外部サイトの当該資料詳細情報にリンクできること。	
17	電子書籍については、電子書籍取扱業者のサイトとシステム連携でき、電子書籍の貸出、返却、予約が行えること。	
18	利用者が個人専用の情報ボックスとして使用できる「私の本棚」を作成できること。	
19	検索結果から利用者が任意に「私の本棚」に資料情報を登録できること。	
20	「私の本棚」には、今まで読んだ資料と、これから読む予定の資料に分けて登録できること。また、これから読む予定の資料から、今まで読んだ資料へのデータの移動、不要になったデータの移動ができること。	
21	「私の本棚」の今まで読んだ資料には、利用者が自由にコメントを登録できること。	
22	「私の本棚」の参照、更新は、利用者本人のみができること。	
23	利用者番号(ID)とパスワードで予約・回送申込み、レファレンス問い合わせができること。	
24	予約・回送依頼の連絡方法(メール連絡・電話・FAX・不要等)を選択できること。	
25	レファレンスの受付ができ、自動的にレファレンス支援ツールに反映されること。	
26	インターネットからの予約・回送はリアルタイムで自動的に処理されること。	
27	インターネットで予約等を受け付けるに際し、SSLなどの暗号化対応ができること。	
28	Web予約で可能な予約点数を制限できること。	
29	カート方式を採用し、複数冊一括で予約できること。	
30	利用者が任意にセットを作成し、セット予約ができること。	
31	予約カートからセットを作成し、セット予約ができること。	
32	利用者番号(ID)とパスワードで貸出状況、予約状況、回送状況が確認できること。	
33	予約状況、回送状況から取り消しができること。	
34	予約状況からセット予約の追加、変更、削除ができること。	
35	予約状況から予約削除情報が参照できること。	
36	予約状況から、返却期限の延長ができること。	
37	利用者が貸出状況から任意に資料を選択し、「私の本棚」に登録できること。	
38	Web予約の受付票・取消票については、即時印刷と、一括での印刷の両方を、状況に応じて選択できること。	
39	携帯電話、スマートフォンにも対応していること。	
40	本人によるパスワードの登録・変更・メールアドレスの登録・変更が随時できること。	
41	メールアドレス登録者に対して、予約・督促の連絡にメールを使用できること。	
42	未所蔵資料のリクエストができること。	
43	メールマガジンの購読申込ができること。 メールマガジンとSDI(新着資料案内)は別々に発行できること。	
44	メールアドレスを登録・変更したとき、利用者に確認メールを自動的に送信できること。	
45	予約の際、利用者のメールアドレス・電話番号が確認できること。	

46	予約画面に、本の取り置き期間は1週間であることが分かるようにすること。	
47	検索結果の画面に図書番号(バーコード番号)を表示させること。	
48	詳細画面から本を予約した後検索一覧に戻ることにすること。	
49	検索結果のレスポンスを早くすること。	
50	検索結果の画面で予約人数が確認できること。	
51	新着図書を検索した時、新着図書が【新着コーナー】の棚にあることが分かるようにすること。	
52	画面上の本棚に表示される任意の書誌は、タイトル、書影や背表紙等が表示され、書影や背表紙等をクリックすると詳細情報表示できること。	
53	「私の本棚」は、「読みたい本」「読んだ本」「借りた本」のカテゴリーで、予めシステム設定できること	
54	貸出履歴の保存の解除が任意にできること。	
55	利用カードのバーコードをスマートフォン画面上に表示し、バーコードを読み取ることで貸出等のサービスができること。	